

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100230		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通西 2階すずらん館		
所在地	札幌市中央区大通西12丁目4-64		
自己評価作成日	平成29年3月9日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0190100230-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大通の四季を感じながら、馴染みの関係の中で日々安心・安全な暮らしが送れる様、ご家族様の協力を得ながら工夫努力しています。
昨年度までスタッフの入れ替わりが激しかった為、定着率向上を目指してきました。
新卒で入社したスタッフも各ユニットで1年が過ぎようとしています。今後もご家族様が安心して出入りでき、スタッフとの信頼関係を重んじてサービスの提供を行って参りたいと考えております。
外食等が難しくなった方でもホーム内で四季やイベント等を通じ目でも楽しんでいただけるよう壁装飾にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみのり大通西」は、地下鉄駅に近く利便性の高い事業所で、道路を挟んで向かいの大通公園のライラック祭りや雪まつりの雪像など行事や季節毎に変わる景色がダイニングの大きな窓から一望できる。開設直後からの利用者が多く、介護度が重くなってきたため皆で揃っての外出が困難になりつつあるが、暖かな日は車いすの方も大通公園に出かけたり、コンサートに行く利用者を個別にサポートをしている。階下にデイサービス、上階にシニアサポートホームが併設された7階建ての事業所で、法人として緊急時の相互協力が取れやすい状況にある。職員は本部で開催される研修で入社後3ヵ月、1年、2年と段階的に技術を向上しており、接遇ではマナー講師の指導を受け、利用者に優しく寄り添い穏やかに過ごせるようサポートするなど職員の質の高さを感じられる。何度か看取りを経験しているが、利用者が終末期を迎える場合には本社がサポートし、職員へ看取りの研修を行っている。排泄面はプライバシーを配慮し、おむつ交換は居室のベッド上で行い、トイレにお誘いする場合も他に聞かれないよう配慮したケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大通公園を取り囲む地域のなかで、常に入居者様に寄り添いながら理念を共有している。	理念はパンフレットに記載されている他、各ユニットのリビングやスタッフルームに掲示されている。職員は理念に沿った介護をしているが、日々のケアにズレが出ていないか毎月のミーティングで確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流まで至っていないが、入居者様の内出歩ける方が隣の美容室を定期的にご利用している。	事業所にオカリナ、マンドリン、シャンソン、ダンス、体操のボランティアが来ている。区内の介護専門学校の実習生の研修受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1年間入居者様の出入りが無く、空室の問い合わせにもお待ち頂く事が続いたが、困っている家族様の話の聞いたりご相談を頂く機会は多くあり、都度現状に見合ったサービスの助言等行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議後、ご家族様や地域包括支援センターの職員の方から出た意見や要望等は管理者からスタッフへ伝え、反映させている。	数名の家族と地域包括支援センター、事業所職員で隔月に運営推進会議が開催されている。毎回議題を決め議事録も読みやすく整備されており、全員の家族に郵送している。町内会に参加を依頼しているが、運営推進会議への参加は難しい状況になっている。	今後も継続して町内へ働きかけ、事業所での取り組みを伝え理解を求めて、拒否感なく住民の立場で協力と連携ができる地域づくりに向けた取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催のGH管理者連絡会議に出席し情報を得ている。	市からメールで連絡があり、内容に疑問のある場合は電話で担当者に確認している。土石流災害の避難先の確認や、入居状況の連絡等をしている。消防署へ連絡し緊急時の連絡網を作り変える際に相談した結果、改善ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の安全性上、施錠されているが、身体拘束については職員は研修で学んでいる。今後も定期的に繰り返し学習するよう検討している。	職員は身体拘束、虐待防止マニュアルで不適切ケアの防止と身体拘束をしないケアを実践し、具体的な身体拘束の禁止事項11項目を熟知している。事業所はデイサービスとシニアサポートホームが別の階にあるため、防犯目的で1階の玄関のみ常時施錠しているが、外部からの訪問時はコンシェルジェが開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内において事故防止委員会が設置されており、定期的に回覧や資料が閲覧できる状態にある。又、それらに関わらず日々のケアにおいて不適切な言動があれば管理者から指導する等、都度意識を高め防止に務めている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	多くの職員は今の所詳しく学ぶ機会がなく、その必要性を理解するに至っていない。資格取得や身近に研修講習などがあれば職員間の会議時に題材として取り上げて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1年間新たな契約も解約もなかった。入院時には空室にしておく期間の質問や不安に対し、契約の内容を改めてご説明し、ご理解のうえ退院受入れを行った。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価や運営推進会議、日常の面会時などから些細な会話でも変化に気付ける様話し合う事を大切にしている。	毎月ユニット毎の「みのり通信」の他に、個別の便りに写真と文面で暮らしの様子を知らせ、職員の退社や新規採用職員の紹介もしている。事業所で利用者毎の個人ノートも利用し共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に要望・意見があれば管理者が本社会議時に事業所の要望として上げ、役員承認が必要な場合は決裁を上げる場合もある。	職員は福祉用具発注、食材係、通信係など分野ごとに業務分担をしている。毎回のミーティングでも職員は意見を言いやすいが、何かあれば随時相談できる体制である。年2回個別面談で職員の意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の考課測定の外、必要時は都度面談を行っている。給与水準は本社で管理されているが、年間公休数の完全消化や各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時から定期的に社内研修が定められている。不定期ながら順番にスタッフが出席できる様シフトを調整している。また必要時はこちらから研修の依頼を出す事も可能となっている。外部の有効な研修には今後更に参加できるようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内ではあるが他事業所と年2回交流する機会がある。その他プロジェクトや委員会が主催する他者参加の交流会にも少数ではあるが参加している。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ここ1年の間では新規にサービスを利用開始された方は居ないが、今後の新規サービスご利用に関しては信頼関係を得られるような体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新たにサービスご利用となるご家族様が入られた際は、事前に情報を得たりご意向に極力添ったサービスを展開できるよう努め、且つ無理難題は説明にご納得の上で利用頂ける様、事前の対話を重視して関わるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・相談の時点から何を必要としているのかしっかりと伺い、本当にGHが適しているのかも含め情報の提供と要望を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共有できる事を見つけ、日々の暮らしの中で関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとっての今をご家族様にもしっかりと伝える事で誤解や認識のズレを防ぎ、本人が安心して関わられる様サポートしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会も多く、交通便の良さが影響している。	利用者が教えていたお弟子さん、学生時代からの友人が訪ねて来たり、家族へ電話をかける時の手伝いをしている。介護度が高くなり外出が困難な利用者が多いが、できる限り継続して馴染みの関係が続けられるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体力差や体調面での時間のズレは個別対応により増えてきているが、同じ空間に一同に介する時間は毎日あり、無理をしない中でも顔なじみの中で過ごされる表情は柔らかく感じられる。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1年間退去が1件もなかった。入院は何名かあったが、入退院時と退院後のフォローを行い以前の生活にかなり近付ける事ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中でご意向を把握できるように努めている。昔のお話からも考慮するようにしている。	会話で希望が言える利用者もいるが、発語の少ない場合でも表情や仕草で職員は利用者の思いや願いを受け止めながら、穏やかに暮らしていける支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にご家族様面会時の会話の中で、新発見があったりと情報が蓄積されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活リズムを理解し体調を考慮しながら支援方法も適時変えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1回、ケアカンファレンスを実施し現状と計画を照らし合わせ意見交換をしている。又、ご家族様の意向を聞きながら作成している。	家族へ電話や面会の際に希望を尋ね、サービス担当者会議でモニタリングを基にミーティングを行い3か月毎の介護計画を作成している。日々の記録は介護計画に沿った項目のチェック欄があり、達成できているか分かり易くなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外にも細かな関連する情報にはノートに記載し情報を共有している。出勤時、業務前に確認印を押すように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一建物内にデイサービスとサービス付き高齢者住宅がある事から、それぞれの行事に招待したり合同で取り組んだり、スタッフ間でも連携して取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な身体状況があるが、大通公園の景観は存分に満喫できている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	訪問診療が大半になってきているが、事前に十分協議し決定している。臨時の往診でこれまで何度本人とご家族様が助かったか、安心の一つとなっている。	訪問診療が主であるが、通院している利用者は家族が同伴できない場合や説明が必要と思われる場合は事業所で同伴をしている。往診受診ノートに利用者毎に記録をしている。	

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、専任の訪問看護師が入る為、1週間の体調と精神的な変化についても報告し、看護師からのアドバイスなども受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカー・看護師と連絡を取り合い、退院に向けて病院へ出向くなどして対応に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針の同意書を取っている。刻々と変化する本人の状態に合わせ適時話し合いをしながら、終末期への覚悟の共有と方針を打ち合わせる様支援している。	重度化した場合の指針を基に、医師が終末期に近いと判断した場合に家族、医師、事業所で相談し看取り介護に関しての同意書を作成している。本部からのサポートで職員の看取り介護の研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会議などで話し合い、マニュアル化している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を定期的実施している。	年2回避難訓練を実施し、災害時の避難経路を確認している。事業所1階にAEDの設置があり、備蓄品や地震対応マニュアルの用意がある。半数以上の職員は救急救命講習を近年に受講済みであり、全職員の定期的な再受講の計画もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限り個々の尊厳を重視しております。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、職員は利用者によりやさしく声かけしている。職員は入社後定期的に法人の接遇等の研修を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの中で希望を探り、表現できない方にはご家族様から聞いた過去の好きな色などをあしらう様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調と訴えを尊重し、様子を見て声掛けのタイミングをスタッフ間で共有し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回訪問理美容を利用している。近所の美容室への同行も実施している。		

グループホームみのみ大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方は少なくなっているが、匂いや音で食べる前の楽しみを会話したり、一緒に食べる事で食の楽しみを共有している。手伝って頂いた際にはお礼の言葉と感謝を伝えている。	本部の献立をもとに、月1回程度はメニューを止めて手作り食や弁当などの出前を楽しんでいる。職員も介助をしながら同じ食事をしている。各ユニットに2名ほど、食器拭きを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事量・水分量を記録に記入し日々の変化を追える様になっている。主治医とも連携を図りながら栄養の強化を実施している方も数名いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科、口腔衛生士を利用している方もいる。義歯の方は洗剤で衛生的に保ち、うがいできない方には口腔ケアティッシュの使用など個々に合わせた対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握共有する事で失禁を減らすよう努めている。寝たきりでない限りはトイレでの排泄を基本としている。	排泄状況をケース記録と温度表に記録し、パターンを把握して誘導や介助を行っている。昼間はなるべくトイレで排泄できるよう支援し、夜間は状態に応じてポータブルトイレを使用したり、ベッド上で排泄用品の交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食形態は工夫しているが、運動は難しい方が半数を超えてきた現状がある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通常は午後2時から4時半の間、毎日入浴できる準備を整えている。その中で個々のタイミングに応じて入浴して頂いている。汚染時は時間を待たず即入浴して頂いている。	毎日入浴可能で、主に午後に各利用者が週2回程度入浴している。浴室や脱衣所を温かくし、快適に入浴できるようにしている。入浴剤を使用したり、入浴時は職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のペースが確立しているので、それぞれ食間に自室で過ごす方が多く、加齢と共に休息を要す方も増えている。夜間の睡眠に響く程の事は今の所ない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの心身状態に応じ、主治医と連携して検討しながら良い状態を保てる様努めている。薬局から届く処方内容にも全スタッフがすぐ確認できる様保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの嗜好や生活パターンを取り入れながら、状況を見てその方の感情や想いを引き出すように支援している。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	突発的な外出は人員と業務的に難しい為、企画を立て人員を厚くしたり事前に計画した物に関してはデイサービスの車両をお借りして実施した。またご家族様と旅行に行ける方は外出を楽しまれている。	天気の良い日は、向かいの大通公園に散歩に行き、車いすの方も一緒に出かけている。全体の介護度が高くなり、ユニット全員で外出は難しくなっているが、個別に好きな歌手のコンサートに出かけたり、家族の支援による個別の外出機会も確保できている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持し使える方はいない。さまざま精神的不安などを抱える方も多いので所持は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ぬり絵も難しくなってきたり手紙のやり取りはない。ご家族様への電話もご本人から要望出来ない方が大半でほぼ見られない。その分面会の頻度は多い。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については入居者様は住み慣れてさほど問題に感じていないと思われるが、介助者にとっては浴室の取り回しの悪さを筆頭に手狭さを感じている。狭い事で会話が広がるなど良い面もあるので、居心地は悪くはないように感じられる。	共用空間は2階、3階とも窓から大通公園の景色を眺めることができる。全体が明るく、温度や湿度も快適に保たれている。季節の装飾や雑誌、ゲーム、音楽CD、写真集などを配置し、活動意欲を持てるようにしている。トイレや浴室、洗面所も使いやすく、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置は工夫された形になっている。後ろに他者が居ても外向きの座り位置で景色対1人の時間を過ごす方はいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に物への執着や興味が薄れているようにも感じられるが、お気に入りの一着や、使い慣れた好みの物を大切に使用している方もいる。	居室入口には利用者の名前が分かりやすく表示され、室内にはテレビやたんす、戸棚、時計、ラジカセなどを自由に持ち込んでいる。壁にはカレンダーや寄せ書き、写真などを飾り、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの使用や自室へのマークなど、できるだけ自分の力で行き来できるような工夫を必要な方には行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100230		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通西 3階らいらっく館		
所在地	札幌市中央区大通西12丁目4-64		
自己評価作成日	平成29年3月9日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大通の四季を感じながら、馴染みの関係の中で日々安心・安全な暮らしが送れる様、ご家族様の協力を得ながら工夫努力しています。
昨年度までスタッフの入れ替わりが激しかった為、定着率向上を目指してきました。
新卒で入社したスタッフも各ユニットで1年が過ぎようとしています。今後もご家族様が安心して出入りでき、スタッフとの信頼関係を重んじてサービスの提供を行って参りたいと考えております。
外食等が難しくなった方でもホーム内で四季やイベント等を通じ目でも楽しんでいただけるよう壁装飾にも力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0190100230-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの個性を大切に生活していく為に、事業所理念を作り上げ、寄り添った支援をしていけるよう実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り・敬老会・クリスマス会等、行事に合わせてボランティアの受け入れをして交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のお店を利用する等して、認知症の人の理解や支援に協力していただけるよう心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の会議を通して出た意見等、今後も取り入れサービス向上に繋げていきたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係が続くよう、担当者と連絡を取ったり、市内で開催されている会議にも出席している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	共同玄関は施設の安全性上施錠されているが、身体拘束については定期的に繰り返し学習している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が研修やミーティングで勉強し、話し合いの場も設けている。日頃のケアや対応の中で、不適切なものはないか毎月確認をしながら虐待防止に努めている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員については詳しく学ぶ機会が少なく、今後研修等で制度の理解に努められるよう検討中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の変動はないが、改定等の際は不明な点や不安が残らないよう十分な説明を行い、手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価や運営推進会議、日常の面会時などから些細な会話でも変化に気付ける様話し合う事を大切にしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回の個人面談を行ったり、月に一回ミーティングにて意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績を把握し、資格手当を設けるなどして、各自が向上心を持って働けるよう評価してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は定期的実施され、ケアの向上を図っている。個人参加では外部研修の機会を持つようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の詳細な情報を得る事で、思いを理解し、安心していただけるようなサービス提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コミュニケーションを取りながら、不安や困り事、要望を受け止め、良い方向へ導けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と面談し、今何が必要か状況把握に努め、支援の方向性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の立場になり、介護だけでなく常にコミュニケーションをとり、より良い関係を導く努力をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪時、ご本人の状況や思いを伝え、必要であれば面会に立ち会い、ご家族様の気持ちにも寄り添っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人来訪時には、関係が途切れないよう、再来訪の声掛けをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の会話やレクリエーション、体操を通じて他者との関わりが出来る。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年対象者なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な関わりを通じて、どのような事が求められているかを把握し、ケアプランに反映させて、安心・安全に暮らせるよう対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様から情報提供をいただき、入居前に利用していたサービス担当者への連絡を密にして、生活の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の日常を通して、常にどのような状態かを把握し、ご本人のペースに合わせて生活出来るように配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一ヶ月に一回ケアカンファレンスを実施しているほか、訪問看護や訪問医療とも連携が取れており、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外にも、細かな状況の変化や気付きは、申し送りノートを活用しており、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合ったサービス、支援を考え取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	目の前の大通公園を眺めて四季を感じたり、イベント時にはボランティアの方に来訪していただき、豊かな気分で過ごせていると感じています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状態を十分把握した上で、ご家族様とも話し合い受診に至っており、その時の指示経過等も共有している。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問看護師には、日々の体調と精神的な変化を報告、アドバイスや指示を受けながら適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は面会に行く機会を多くし、病院関係者との情報交換やご本人様の状態を把握し、早期退院出来るように対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご本人様やご家族様と話し合い、意向・方針を共有している。また、ご家族様やかかりつけ医等との連携を図りながら、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルがあり、急変時にも速やかに対応出来るようにしている。また、管理者、かかりつけ医との連携体制も取れている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜それぞれの火災を想定した訓練を定期的を実施し、避難方法を身に付けている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーを尊重し、声掛けや対応について職員間でも話し合いながら最適な対応ができるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人差もある為、出来る限りご本人に寄り添い傾聴し、ご本人の意思を尊重できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせ、その日の状態を把握しながら、ご本人のペースに沿った支援が出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容室を利用している。日常着はその方の好みを考慮し、選択してもらっている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備することは難しく、片付けは特定の方のみとなっているが、全員が目で見ても楽しめるよう、食事の盛り付け等も工夫に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からのレシピを参考に、栄養バランスを考えた食事を提供、全員の摂取量を記録に記入している。摂取量が難しい方には栄養補助食品も併用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせた口腔ケアの声掛け・介助を行い、個別では歯科衛生士が入っている方も多い。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ声掛けを行い、トイレでの排泄に繋げ、表情の変化や要望に対し、素早い対応を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト等の乳製品を取り入れたり、体操を行って便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯が決まっている中で、ご本人の状態に合わせて気持ち良く入浴していただけるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を把握しながら、休息時間を確保している。日中適度な活動を促し、生活リズムを作る事で夜の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から届く処方箋を個人ファイルに綴り、職員は服薬内容、副作用等についても理解、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ってもらえるような現状ではなくなっているが、外出・行事等に参加していただくことで気分転換となるように努めている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時季には目の前の大通公園を散歩したり、個別でコンサート鑑賞や外出に出掛ける支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持が難しい状態となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で混乱され、手紙を書く事も困難な状況にある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のスペースには、季節感のある飾り付けを行い、居心地良く過ごせるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルが無いよう、席の配置を工夫したり、また、見慣れた顔が見える事で安心していただける空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースが限られており、最小限の収納ケースとなっているが、壁には写真や季節の絵等を掲示して、穏やかに過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口やトイレ等、本人が見てわかるように表示している。常に事故の無いよう環境整備し、危険防止に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみのり大通西

作成日：平成 29年 3月 27日

市町村受理日：平成 29年 3月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、町内会長はじめ民生委員、町内の有識者等の参加が得られていない。開設前段階からの建設反対を唱えていた町内会長が現在も会長をしており、そこでできてしまった溝は思った以上に深く交流は困難を極めている。	29年度の一步目として、まずは一度でも民生委員の参加を目指す。	案内は紙面だけではなく、直接働きかけるか事業所のクッションとして他機関から要請してもらうなどの行動を取る。これまでの経過から時間を要す可能性は大いにあるが、地道な活動を続けていく。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。